

社会福祉法人 関西中央福祉会
平成リハビリテーション専門学校

第 9 回 教育課程編成委員会 議事録

1. 開催日時 令和 7 年 1 0 月 3 0 日（木） 1 8 時 0 0 分～ 1 8 時 5 5 分

2. 会議出席者（敬称略）

樋笠 重和（兵庫県理学療法士会 理事）

田山 大介（西宮回生病院 作業療法士）

松本 憲作（淀川平成病院 理学療法士）

渡邊 康子（兵庫県作業療法士会 理事）

堀川 康平（兵庫県言語聴覚士会 阪神南ブロック長）

（欠席）藤澤 昭信（平成記念病院 言語聴覚士）

3. 陪席者

藤本 陽子（副校長）

新島 剛 （理学療法学科 学科長）

七谷 倫子（作業療法学科 学科長）

青木 崇 （言語聴覚療法学科 学科長）

寺本 一平（事務長）

4. 会議の場所

兵庫県西宮市津門西口町 2－2 6 平成リハビリテーション専門学校内

Web 会議方式にて実施

5. 審議・議題事項

開催にあたり、各委員及び当校役職者の紹介を行う。

続いて今回の議長の推薦をはかったところ、議長を青木学科長、書記を寺本事務長に推薦することを決め議事審議に入る。

議案 1. 講義への当事者参加実施報告

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う。

- 2016 年より積極的に各学科学年において当事者の方に講義に参加していただいている
- 内容・目的
 - 当事者本人の話を聞くこと

- ◇ これから学生自身が関わる方々の思いを知る
 - ◇ 療法士に対する思いを知る
- 実習前に当事者に関わること
 - ◇ 関わる際の注意点など知ることができる
 - ◇ 当事者目線でのアドバイス、学生の問題点などを把握することができる
 - ◇ 座学では得ることができない職業イメージや当事者イメージを持つことができる
- 理学療法学科・作業療法学科
 - ◇ 脳血管疾患当事者・脊髄損傷当事者による講義および実習対策
- 言語聴覚療法学科
 - ◇ 聴覚障害者、失語症当事者、脳血管疾患当事者による講義および実技試験
- あいサポーター養成講座
 - 作業療法学科・言語聴覚療法学科：2024 年度より、理学療法学科：2025 年度より
 - 西宮市が委託した西宮市社会福祉協議会が、企業の従業員や団体、個人を対象に実施する。
 - 障害のある当事者等がメッセンジャー（講師）となって、普段の暮らしの様子などを織り交ぜながら、様々な障害の特性や障害のある人が困っていること、必要な配慮を学ぶ。
- 今後の課題
 - PT 学科：脳卒中当事者、脊髄損傷当事者の方とのかかわりを継続
 - OT 学科：精神科領域の当事者参加が課題
発達領域、老年期（認知症）の当事者参加の検討
 - ST 学科：様々な症状の当事者参加が課題
- 委員より各内容についての意見・質問
 - 特になし

議案 2. 臨床実習の目標設定変更報告

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う。

- 実習目標・課題の変更について（理学療法学科・作業療法学科）
 - 学生が 3 年間を通して段階的に学びが得られるよう、実習目標を見直した
 - 従来型の特徴であるレジュメを始めとした課題遂行の実習を残しつつ、診療参加型の実習を遂行できる目標とした

- 学内実習と学外実習に分けたことで、学内で学外実習に向けた準備や実習後の振り返りを行える機会を設けた
- 学内実習の目的
 - 臨床実習直前に、集中的な実習準備を行う
 - 臨床実習直後に不十分な実習課題に取り組んだり、実習成果を判定するなど、個別の振り返りを行う
 - レジューメをはじめとした実習課題について、実習後に学内でも取り組むことで、臨床推論や統合と解釈における考え方や表現方法の理解を深める
- 実習課題の変更
 - 総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにおいてレジューメ作成を課題とする
- レジューメの作成について
 - 当校では症例報告レポートを廃止して、レジューメ作成の課題を継続
 - 理由として、1人の患者に対し治療プロセスを経験することで、より臨床推論力が磨かれると考えているため
 - 診療チームの一員として診療業務に参加（診療参加型実習）しながらも、1人の患者に注力（レジューメ作成）する形式を推奨
- 委員よりのご意見・ご質問について
 - 診療参加型実習移行の過程において、現場でのスキルアップを考えると、レジューメ作成を今後も継続することはとても有効な手段であると思う。
 - 臨床現場において、簡易にまとめて相手に伝える技術はレジューメをまとめる経験により、ある程度は培われるため必要かと思われる。
 - 各種評価を学内実習でも行っていて良いと思う。他校も含めて実習生を見ていると、各種の検査は実施できるが、それらの結果をつなげて考えていくことができない場面をよく見受けるので、一人の症例を総合的に診ることは重要であると考えている。
- 教員より
 - レジューメ作成を自由（学校や学生に委ねる等）にしている場合、実習受入側では指導が行いにくいという現状があることを感じている。レジューメを作成する上で学内においてどのような指導をしておけば現場として有難いと考えられておられるか

議案 3. 学生向け研修開催報告

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う。

- 金融教育セミナー
 - 対象：全学科 1 年生
- 委員よりのご意見・ご質問について
 - 学生が加害者になる可能性についての問題、SNS の取扱いについてのセミナーを行っているか
 - 本来保護者がしないといけないものを学校でされているのは素晴らしいと思った。書類に自筆する際に字がとても見にくいものがあるため。自分の名前をしっかりと読みやすく書くことの意味を指導してもらえれば社会人になってからは問題なく進められるのではないかと思った。
- 教員より回答
 - 加害者にならないための取り組みとしては、事例検討として具体的な過去の事例を提示して学生が考える機会を作っている（PT・OT 学科）。
 - 1 年時の前期に試験についてのアナウンス・オリエンテーションを行い、相手に伝わらなければ意味がないので、相手に伝わるように書くことを意識付けさせるよう指導している。

議長の進行に基づき、上記報告事項は全て了承され、審議事項（議案 1 ～ 2）は原案どおり承認された。

藤本副校長より次回委員会開催予定の説明と参加のお願いを行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。